

# 国内初の高層純木造11階建てビル

## 大林組



発行所 日刊木材新聞社  
〒135-0041 東京都江東区冬木23-4  
編集・営業 ☎03-3820-3500  
FAX03-3820-3519  
総務・販売 ☎03-3820-3511  
FAX03-3820-3518  
<https://jfpj.jp/>  
eメール info@n-mokuzai.com  
購読料 1ヵ月 6,200円  
©日刊木材新聞社 2019  
本紙の無断複製(コピー・PDF)配布は、著作権の侵害にあたり違法です。

大林組(東京都、運輸賢治社長)は23日、日本初となる純木造11階建ての高層耐火建築物を自社研修施設として建設することを発表した。自社独自の「オメガウッド」というつづり材を使い、接着なしで長尺、大スパンを可能にする技術を採用した接合部に加え、「オメガウッド耐火」による3時間耐火部材も使用する。同社は「純木造で高層建築を実現するという、一番難しいことに挑戦することで、多様な木造に対応できる」と話している。

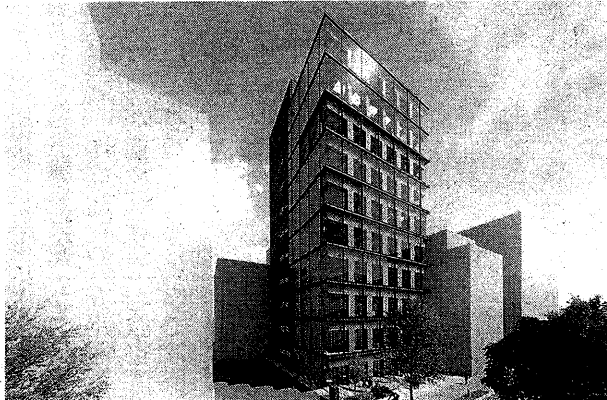
## 接合部には超厚物合板を使用

同プロジェクトは、同社横浜支店跡地に自社研修施設を建設するに際して純木造11階建て(最高高44・1㍎)で取り組むことになったもので、延べ床面積は3620平方㍎となる。旧横浜支店の杭構造を再利用し、地階に免震構造を採用して建物の変形を抑える。

柱はLVL150㍎、厚2枚の間に超厚物合板200㍎(カラ松)を挟み込み、ドリフトピンで接合。梁LVLを直交させる。荷重支持部は柱700×500㍎、梁900×500㍎で耐火被覆として強化石膏ボード21㍎、3枚と表面仕上げ材の木材20㍎を張って仕上

げる。柱は4㍎で接合部を組んで柱・梁の十字型にしたユニットを各階の中間部でGIR接合する。接合部には鋼板挿入などは行わず、合板メーカーと開発した超厚物合板を介することでめり込み耐力を向上させ、靱性のある接合部として開発した。梁のスパンは10

横浜・関内に自社研修施設として建設する



㍎、1階には18㍎の無柱空間も設ける。建築基準法上は11階建ての1階でも2時間耐火構造で建築可能なが、「都市部の耐火木造」ということで、外部からのもらい火も想定して3時間耐火部材を使用する(同社)。

同物件は、日本住宅・木材技術センターの2019年度CLT活用建築物実証事業等に採択された。CLT2時間耐火床のスラブ厚の削減、割り付け方法、施工性の向上などCLT耐震壁の活用についても実証する。

プロジェクトでは構造用LVL1000立方㍎、CLT1000立方㍎の合計2000立方㍎を使用する予定で、強度性能などの要求性能を満たせる仕様を設計中。

20年3月に着工、22年3月に竣工の予定。